

2006年 第10回日本代替・相補・伝統医療連合会議 (JACT)

バイオフィーマンティクス® とパタカラの併用で舌痛症が治癒した一例

○小野田繁、新良一 a、三浦竜介 b；小野田歯科医院、a エイ・エル・エイ、b ディー・シー・エス

舌痛症は「心理・情動因子に起因し、舌に表在性の違和感を訴えるが、それに見合うだけの器質的変化のないもの」とされ、現在非常に増えている。治療法としては従来の方法に加え鍼灸や漢方などの東洋医学的報告が見られる。今回病因論的に見て、まず内因的には乳酸菌の発酵産物であるバイオフィーマンティクス（以下 BF）で、外因的には口腔筋機能療法用具パタカラの両者併用で舌痛症が治癒した一例を報告する。

【症例】

82歳、女性。主訴は舌および口腔内粘膜に灼熱感を伴う疼痛。現在不眠症、便秘症で処方を受けている。現病歴としてはかかりつけの歯科医にて都内某大学病院心療歯科を紹介され、3年余り通院するも症状が改善せず通院を中止。家族の勧めで鍼灸院に転院。疼痛緩和のために鍼およびアロママッサージの施術を受けるが、やはり症状が改善せず、鍼灸師の紹介で当院に来院。現症：舌は紅舌で舌苔が付着。口腔内は軽度な乾燥。口腔内所見：両顎とも局部義歯が装着され、前突傾向があり口呼吸となっている。

【結果】

初診時口腔内水分測定は27.5%、唾液 pH が5.5、口唇閉鎖力測定では5.2Nであった。治療方針として①サプリメントとしてBFの飲用、②口唇閉鎖力強化のためのパタカラによるトレーニング、③クラスプレスデンチャーの作製の3本立てとした。治療3ヵ月後の治療終了時（義歯装着後2週間目）には、口腔内水分測定が30.2%、唾液 pH が6.5、口唇閉鎖力が6.3Nとなり、舌の痛みも完全に消失した。全身症状として初診時にあった不眠と便秘も消失した。

【考察】

初診時の各種検査では pH 以外に顕著な異常が認められなかった。しかし患者に便秘傾向ならびに不眠傾向が強いことから、本症例の原因の第一は腸内バランスの崩れであり、BFの飲用で腸内環境が整えられ舌の痛みが消失したと考えられる。また義歯の不具合により咀嚼が困難となることで刺激唾液分泌量の低下を招き、また口唇閉鎖力がやや低いことから口呼吸により唾液が乾燥したことも原因として考えられる。パタカラによる口唇閉鎖力増大で鼻呼吸習慣となることに加え、クラスプレスデンチャーの使用で舌および口唇頬粘膜の擦れが消失したものと思われる。

【結論】

臨床においては患者の病状にあった各種療法を組み合わせることが重要であり、其の根本として疾病の内因に働く BF を用いる意義は大きいと考えられる。